



遠隔授業の留意点

～「遠隔授業アンケート」結果から見えてきたこと～

目次

1. 遠隔授業についてのアンケート	2
2. 教員回答結果	2
3. 学生回答結果	4
4. 遠隔授業の留意点	9
5. 春学期の事例紹介	11
6. 遠隔授業におけるマナー、著作権について	19
7. まとめの言葉	19
8. 参加者アンケートより	20
9. 教育支援センターお知らせ	21

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い 2020 年度春学期の開講授業は主にインターネットを活用した授業（遠隔授業等）で実施されました。全面的な遠隔授業の実施は初めての試みであり、春学期の経験を秋学期に活用していくため、学生、教員に対し「遠隔授業についてのアンケート」を実施しました。それらの結果を踏まえて講演を行い、3名の先生方に事例紹介をいただきました。

本講演が、2020年度秋学期の遠隔授業の参考になり、「遠隔授業の推奨ガイドライン(2020年度秋学期版)」の発行に至ったことをご報告いたします。



教育支援センターでは、2020年9月14日（月）に「遠隔授業の留意点～『遠隔授業アンケート』結果から見えてきたこと～」と題して、2020年度第1回教育支援センター「FD研修会」を開催しました。当日は、Teams ライブイベントにて本学の7キャンパス及び短期大学部、医療技術短期大学より315名の教職員が参加しました。（以下講演内容）



1. 遠隔授業についてのアンケート

今回は、教員や学生の皆さま方に先日ご回答いただきました、遠隔授業についてのアンケート結果から見えてきたことについて、「遠隔授業の留意点」といったテーマでご報告させていただきます。本アンケートは、本年の8月1日～8月15日にWeb上で行いました。回答率が、教員46.5%、学生23.3%と、学期末のお忙しい中、ご回答いただき誠にありがとうございました。

遠隔授業（オンライン）に関しましては、オンデマンド型とライブ型がございます。また、オンデマンド型には、授業動画配信と資料課題提示がございます。その他に、TeamsやZoomを用いたライブ型がございます。秋学期の対面授業におきましては、どうしても遠隔授業を受けたいという方もいらっしゃるかと思いますので、対面授業の中でも遠隔授業の要素が残ると

いうことを念頭に置きながら、この後の調査結果及びその結果から見えてきたことについてお聞きいただければと思います。

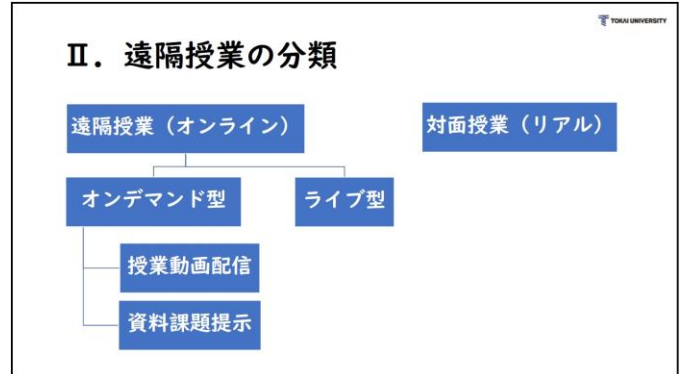


図1 遠隔授業の分類

2. 教員回答結果

はじめに教員の皆さま方からご回答いただいた調査結果についてです。学生とのコミュニケーションに関しましては、約60%の方が「とれている」と回答いただきました。コミュニケーション手段として最も多いのが、E-mailを利用した方法です。ただ15%ほどの方は、コミュニケーションが取れていないと感じています。この部分をどのように改善していくかが今後の課題だと思います。

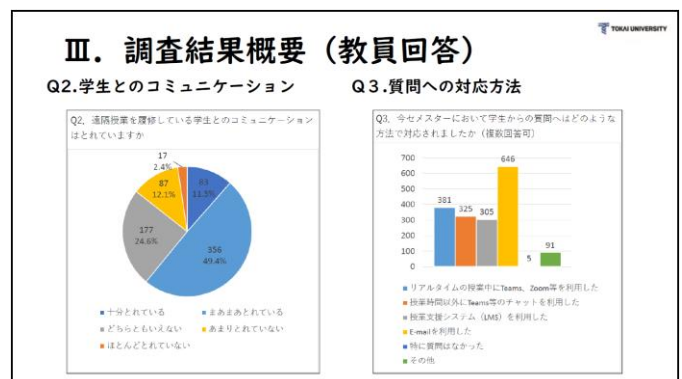


図2 Q2 調査結果概要（教員回答）

遠隔授業におきまして、先生方は非常にご苦労されていますが、「遠隔授業の準備に関する時間は、昨年度までの対面授業（通常の授業）と比べてどうでしたか」という設問では、8割以上の教員の皆さまが「多い」と回答されています。フィードバックに関する時間においても、昨年までの対面と比べて非常に多くの時間を取られたことがわかります。遠隔授業の対応に苦勞され、頑張られたことが伺われます。そのうち課題に関しましては、学生の方もだいぶ苦勞しています。この点については、学生回答結果で触れさせていただきます。

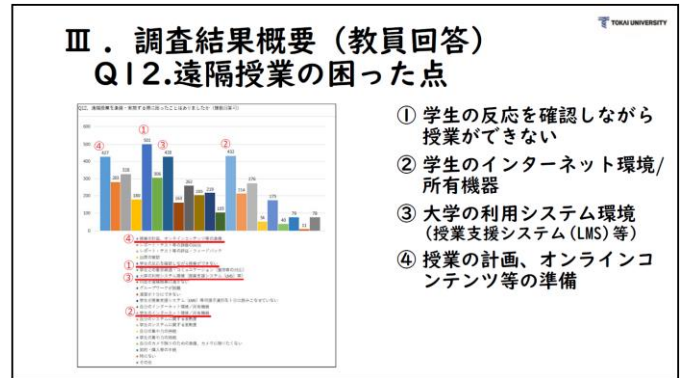


図 4 Q12 調査結果概要（教員回答）

オンラインコンテンツ等の準備については、皆さまとても苦勞されている部分です。学生の反応を確認しながら授業ができないという点については、遠隔授業ではなかなか改善が難しいと思いますが、学生とコミュニケーションを取っていくことで上手くいくのではないかと考えています。

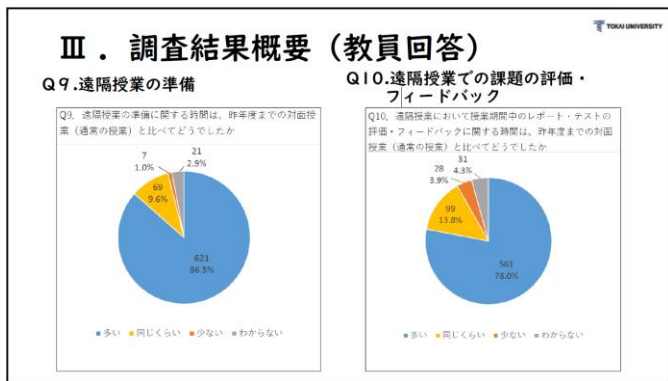


図 3 Q9,10 調査結果概要（教員回答）

「遠隔授業を準備・実施する際に困ったことはありましたか」という設問では、以下の項目に回答が多く挙がりました。

- ① 学生の反応を確認しながら授業ができない
- ② 学生のインターネット環境/所有機器
- ③ 大学の利用システム環境
- ④ 授業の計画、オンラインコンテンツ等の準備

3. 学生回答結果

次に学生回答についてです。インターネット接続環境に関して、3分の1程度の学生が何らかのトラブルを経験しているようです。こちらに関しましては秋学期以降も学生自身の自宅等における通信環境に依存しますので、秋学期においても問題が残るだろうと思っています。それを念頭に置いた遠隔授業の方法あるいは対応を考える必要があると思います。

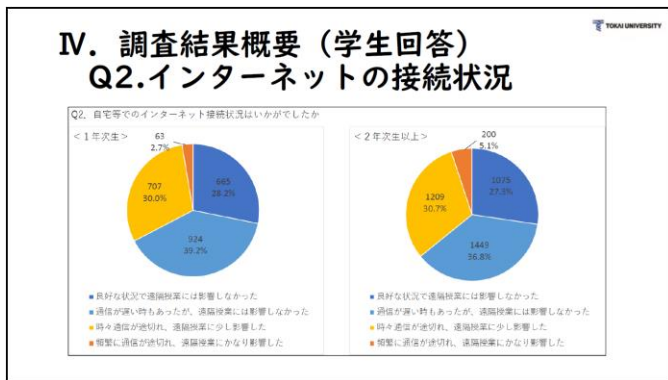


図 5 Q2 調査結果概要 (学生回答)

「自宅等で遠隔授業を受講する際、通信等に関して気になったことはありましたか」という設問では、

- ・カメラに顔を出したくない
- ・自室の映り込みが気になる

と、プライバシー関連のものが挙げられています。それから、

- ・自宅にプリンターがない
- ・通信料金等の経済的負担が増えた

という機器・費用関連が挙げられています。

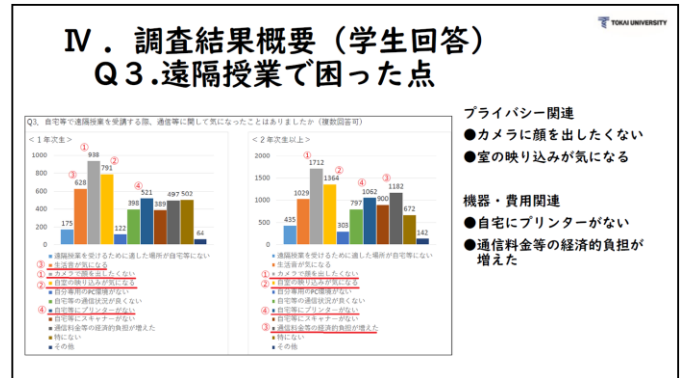


図 6 Q3 調査結果概要 (学生回答)

プライバシーに関する回答に対して、先生方の遠隔授業の困った点として、学生の反応を確認しながら授業ができないという点が挙げられておりました。これは両立することが大変難しいと思いますが、学生のプライバシーを尊重するということが必要だと思います。

「遠隔授業には主にどのような機器を使用していましたか」という設問では、PC という回答が非常に多いですが、3分の1程度の方が、スマホと回答しています。従いまして、PC で受講している学生だけでなく、スマホ等の利用者もいるということを念頭において、あまり小さな文字を使わないとか、あるいはパソコンに入っているソフトに依存しないような準備が必要になると思います。

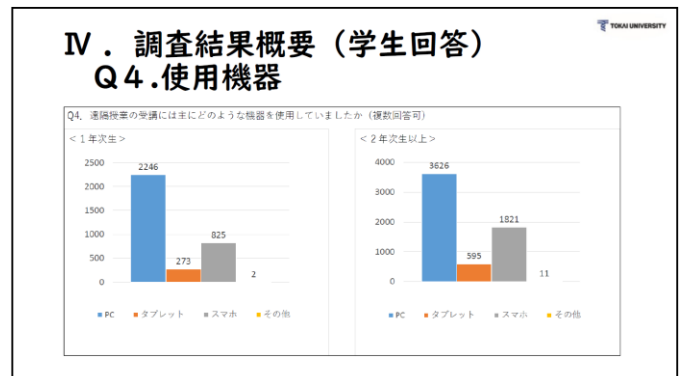


図 7 Q4 調査結果概要 (学生回答)

「遠隔授業において、不十分と感じたシステムはありましたか」という設問では、

- ①授業支援システム
- ②キャンパスライフエンジン

となっています。基本的にはLMSのアクセス制限に関する、不満点であると思います。こちらに関しては、総合情報センターの方で非常にご苦労されて新LMS(Open LMS)に移行していますのでそちらの方に期待できればと思っています。

これを減らしていくのは私たち教員の役目かと思えます。調査の形態が違いますが、先日2020年度第5回学部長会議で報告を行いました、2020年度春学期学部「授業についてのアンケート」の集計におきましては、授業の理解度(わかりやすかった・よく理解できた)という点に関して、満足度が下がっているという結果が見えていますので、私たちが注意していかなければならない点であります。

また、授業が理解できなかった理由としては、

- ①課題が多く、取り組む時間が十分に取れなかった
 - ②遠隔授業では積極的に取り組めない
 - ③遠隔授業の長さ比べて集中力が続かなかった
- となっています。

①では課題が多く非常に大変だったということで、オーバートレーニングの状態にあるということが想像できると思います。②の部分ではモチベーションが上がってこないというところがございますので、どのようにそのモチベーションを上げていくか、課題の部分と授業の関わりになってくると思いますので、私たちに課された課題だと思っています。

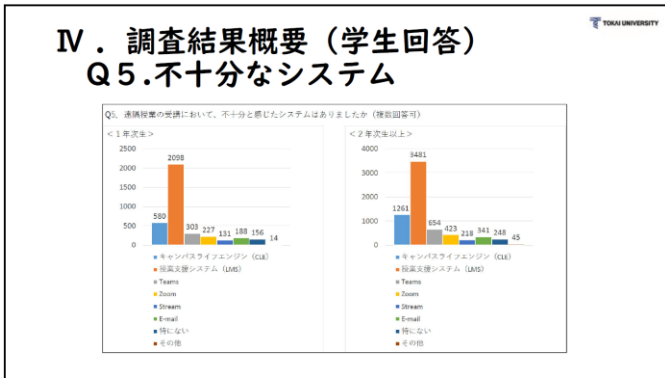


図 8 Q5 調査結果概要 (学生回答)

「遠隔授業で、授業の内容はよく理解できましたか」という設問では、昨年までの対面授業との比較が難しいですが、3分の1程度の学生が、よく理解できなかったと回答しています。

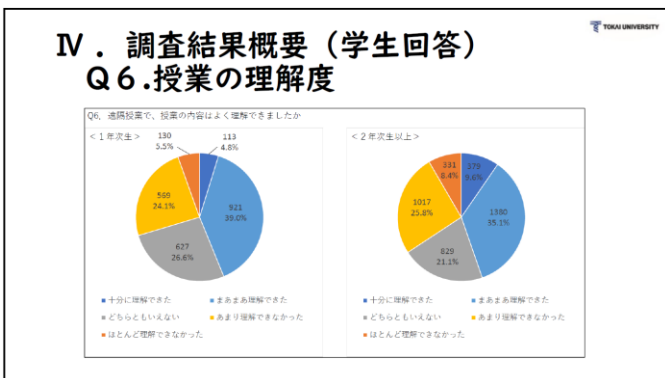


図 9 Q6 調査結果概要 (学生回答)

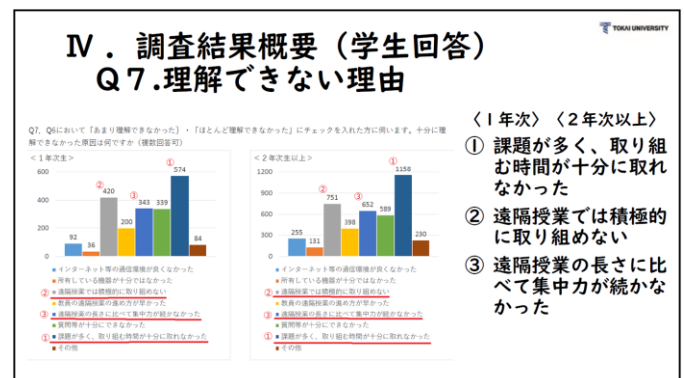


図 10 Q7 調査結果概要 (学生回答)

課題の量に関しては、課題が多く期間内に終わらないと多くの学生が回答しています。また、課題の提出期間については、非常に短いと回答されています。私たちの提供しているものは大学の講義のため、講義時間外での学びが必要であり、ある程度質の高いものを求めることは必要かと思いますが、いきなりの変更で戸惑っている状況というのが学生回答から見えてきます。1年次生と2年次生以上で比較しても、2年次生以上も同様に課題量が多く、難しいという回答が多く出ていますので、その戸惑いに対して私たちがどのように対応していくかが非常に重要になってくると思います。

また、自由記述を見ますとフィードバックが少なく達成感が得られないという回答が多くございます。満足度と達成感を与えられるような課題を私たちがつくっていく必要があると思います。

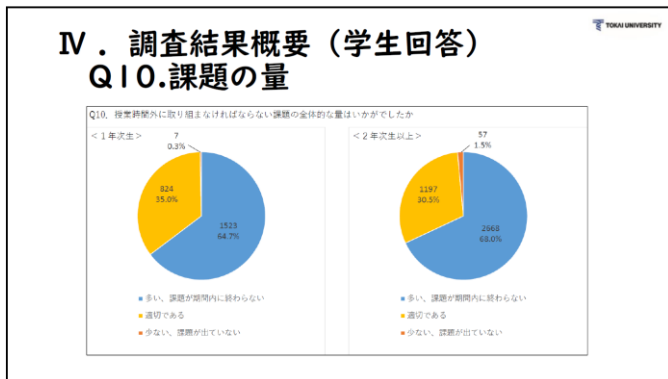


図 11 Q10 調査結果概要 (学生回答)

学習時間に関しては、非常に増えています。これは2020年度春学期学部「授業についてのアンケート」結果でも同様に、学生の学習時間が増えてきているという結果でした。非常に好ましいことだと思います。ただそのために疲弊感を訴える学生が非常に多いことが自由記述欄では伺えます。

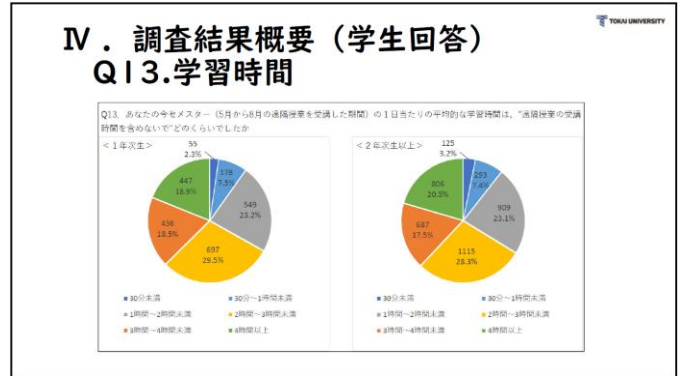


図 12 Q13 調査結果概要 (学生回答)

私たち教員への質問の仕方ですが、1年次生、2年次生以上ともに、特に多いのが E-mail を利用したという回答です。2年次生以上では Teams、Zoom 等リアルタイムの講義中に行ったという回答があります。ここで問題になりますのは、一定数の「特に質問はしなかった」と回答した学生がいるという点です。

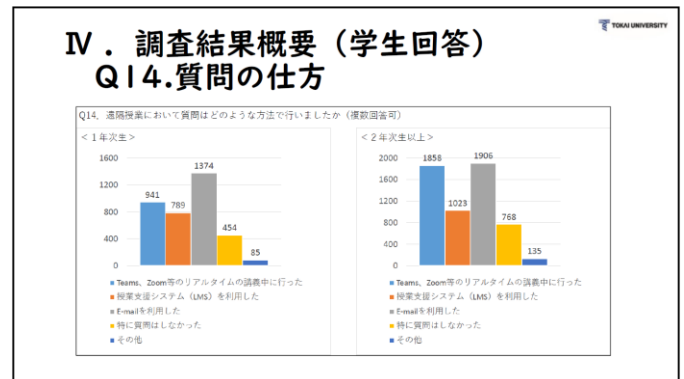


図 13 Q14 調査結果概要 (学生回答)

中には、授業の内容を理解しているため質問をしなくても大丈夫という学生もいると思いますが、質問をしたくてもできない学生も一定数いるのではないかと思います。できないということは、方法的な問題、あるいは私たち教員への配慮から質問できないという2つの側面があります。リアルタイムの授業方法であれば、教員の方からの声かけをすることによって質問がしやすくなると思います。Teams や Zoom を使ったリアルタイムの授業で、終わりの数分間で少し時間をとって、そこで質問を聞く方法もあります。

私は最初のうちは、E-mail を使って質問を受けていたのですが、なかなかうまくレスポンスができないということで、途中で Teams を使った質問の時間をつくりました。実際にそのような授業運営をしたところ、質問をしたいけれど躊躇しているような学生が見えてまいりました。そこでこちらから学生に対し、「何か質問がありますか?」とお聞きしたところ、質問が返ってきたということがありました。私たちの方から積極的に質問ができる場をつくり、声かけをすることによって学生とのコミュニケーションができてくると思います。大変なことです。是非ご配慮いただければと思います。

「遠隔授業と対面授業（教室等での通常の授業）では、どちらが良いと思いますか（実験・実習・実技等を除く）」という設問では、50%程度の学生が、対面授業を希望しています。遠隔授業を希望する学生も一定数おりますが、対面で講義を受けたいという学生が一定数いるということの隅に置いていただければと思います。

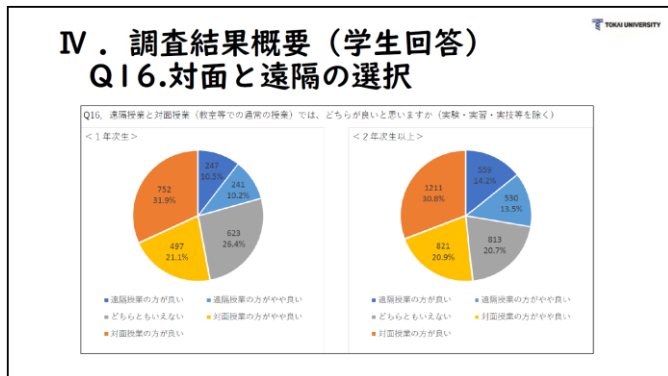


図 14 Q16 調査結果概要（学生回答）

さて、遠隔授業の良かった点と良くなかった点を学生に聞きましたが、良かった点では、プライバシー関連と勉強関連に以下のとおり多くの回答が挙げられました。

- ・通学の必要がない
- ・服装・身だしなみが簡単
- ・自分のペースで勉強ができる
- ・繰り返し勉強ができる
- ・いつでもどこでも勉強できる

しっかり勉強していきたいという気持ちが出ている、そういうところが良かった点だと思います。

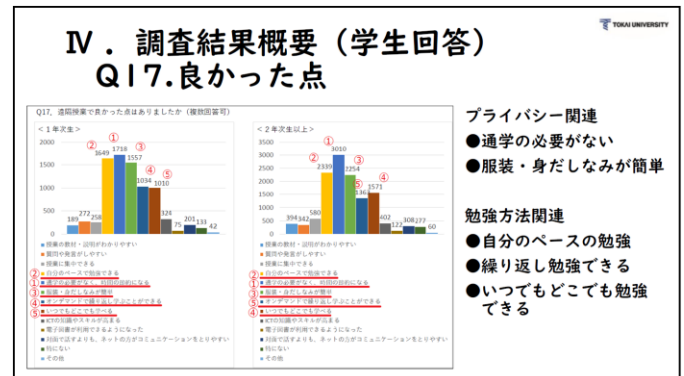


図 15 Q17 調査結果概要（学生回答）

良くなかった点では、1年次生、2年次生以上ともに、大学側のシステム環境（授業支援システム（LMS）等）が十分ではないと多くの学生が回答していますが、新 LMS の導入での改善を期待したいと思っています。

また、1年次生においては、他の人と比べて自分の理解度が十分かどうかわからない、友人と授業の内容に関する話ができない、という点が多く挙げられています。2年次生以上でも同様に、他の人と比べて自分の理解度が十分かどうかわからない、という回答が多く挙げられています。したがって、これまで学生と教員間のコミュニケーションが重要という話をしてきましたが、この結果を見ますと、学生は学生間でのコミュニケーションを十分に取りたいと強く希望していることが見えてきました。そのため、私たちの方で学生間でのコミュニケーションが取れる場を準備してあげることが必要ではないかと思っております。

遠隔授業の良くなかった点として、「大学の施設・設備が利用できない」という回答は2年次生以上で多くございますが、具体的には、大学の図書館、友人等と語り合えるキャンパスが多く挙がっております。友人等と語り合えるキャンパスという回答については、先述させていただいております、学生間のコミュニケーションを学生が非常に望んでいることがよくわかります。こういう場の提供というのは、これからいろいろな所で考える必要があると思います。大学の図書館の利用については、普通の書店では手に入らないような専門的な本で勉強したいという、積極的に大学の施設を使って学びを深めていきたいという方が相当数いることが伺えます。

最後に、今後コロナ禍が終息したら、どのような授業方法が良いと思いますかという設問では、対面授業と遠隔授業で調査しました。回答を見ますと、やはり3分の2以上の学生が対面授業を望んでおり、コミュニケーションをしっかりと取りながら学んでいくことを望んでいることがわかります。その中で一定数、遠隔授業の方が良いという学生もいるため、今後このような学生についてどういう展開にしていくか考えていく必要があると思います。

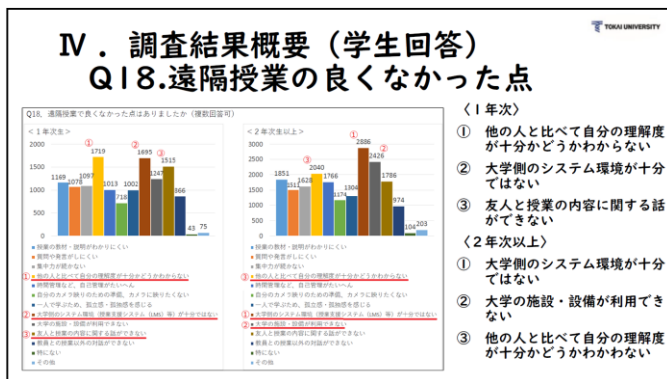


図 16 Q18 調査結果概要（学生回答）

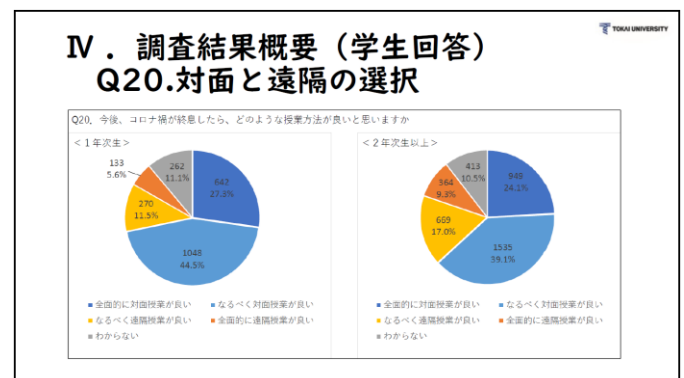


図 17 Q20 調査結果概要（学生回答）

4. 遠隔授業の留意点

これらアンケートの結果を、遠隔授業の留意点ということでまとめてまいります。秋学期の授業へ向けて非常にお忙しいところだと思いますが、授業の満足度を上げていくために必要と思われることを私の方からいくつか提案させていただきます。授業改善に向けてのお願いということで、講義にマッチしたものを採用していただければと思います。

■コミュニケーションの重要性

さて、最初にあがるのが、コミュニケーションをとることが必要であるということになると思います。秋学期のシラバスにおきましては、授業担当者のメールアドレスが記載されますので、E-mailで教員と学生とのコミュニケーションが取りやすくなっています。また、TeamsやLMS等を利用したコミュニケーション等も有効であると思っています。それから、学生間でのコミュニケーションを取りたいという学生からの希望が強くなります。これは学科等での組織的対応が必要になってくるかと思えます。学生間で自由にされているものは既にありますが、1年次生では、そのような学生間でのグループを作るというのは、なかなか難しいところがありますので、私たちの方から与える必要があるのではないかと思います。大変だと思えますが、学科間でのTeamsやLMSの掲示板等の活用で、学生間のコミュニケーションが取れるように考えていただければと思います。

■課題の出し方

今回の学生からの調査結果では、非常に課題が多かったという結果でした。疲弊感を感じる学生が多いということで、達成感・満足感を与える回答ができる課題とすることが肝要なことと思います。

また、学生の通信環境が現状あまり良くないことを考慮すると、余裕を持った期間設定、それから締め切り後の柔軟な対応が必要になってくると思います。学生は、私たち教員からのコメントを非常によく待っています。そのコメントを見ながら、自分の理解度を確かめたいという希望がございますので、大変なことと思いますが、課題へのコメントをなるべく早く行い、学生の能動的な授業参加がなされるようお願いいたします。また、達成感・満足感を持ってもらうためにも、課題の量の見直しもお願いできればと思っています。

■出席と成績評価

授業におきましては、コロナ禍である状況を考えますと、出席を取ることが非常に必要になってくると思います。遠隔授業におきまして、出席は授業での活動を確かめる方法ということになると思います。LMSの利用、あるいは授業に出席したことによってできる確認テストなどもございます。そういうものを、余裕を持った期間設定を行い、実施していただくと良いと思います。

先ほど、学生からの調査結果において、他の人と比べて自分の理解度が十分かどうか分からないという点がありましたが、評価方法の周知についても学生は非常に気にしています。従いまして評価方法の周知というのは、これからの1つの課題になってくると思います。シラバスとの整合性を保ちながら、講義の実施

方法(課題・小テストを利用するときのスケジュール、掲示期間、量、提出方法等)を適時学生に周知することが必要かと思います。一回言ったから大丈夫ということではなく、何度も伝えないと学生の間に周知ができないと思っています。これも大変なことだと思いますが、お願いできればと思います。

また、対面授業におきましては、一定数の遠隔授業を望む声がありますので、対面授業と遠隔授業のハイブリッド型も実施する可能性があるかと思っています。実施には授業方法の周知やテストの扱いが非常に大変になってくるかと思っています。こちらの方に関しましては、周りの方々と議論されるのが宜しいかと思っています。

■オンデマンド型の留意点

オンデマンド型授業に関しては、集中力がなかなか続かないという学生の声が多く挙がりました。1つの授業において、100分の動画を発信するよりは、10分~20分程度の短いものを複数本用意する方が、おそらく集中度が増して理解度が上がると思います。これも大変なことですが、ご用意いただければと思います。

加えて、やはり質問対応等、学生とのコミュニケーション方法の確保が非常に重要になってくるかと思っています。資料課題提示型では、提示だけになりますので、質問をどのように受けて返すかといった、学生とのコミュニケーション方法の確保がこちらでも必要になってくるかと思っています。

また、授業資料の提示は、学生の授業準備のためにも、授業日前日の17時までに公開することを推奨いたします。公開した資料に関しましては、通信状況がなかなか難しい部分もございますので、ある程度長い期間の公開をお願いできればと思います。授業資料に

関しましては、学生が順次勉強していることを考えますと、授業進度に応じた資料公開というのが、モチベーションを上げていき、理解度を深めていくために重要かと思いますので、そのように設定をお願いできればと思います。

■ライブ型の留意点

こちらは、やはり通信障害の影響が大いにあります。大学のLMSは変わりますが、学生の自宅の通信状況は改善されるかどうか分からない部分がございます。オンラインでの映像配信は、学生によってさまざまな問題(画像が細切れ、音声が出ない等)がございますので、できれば同時録画を行い、オンデマンド型でも配信できるようにしていただければと思います。

ただ、こちらについては全員見られるようにしますと、オンデマンド型ありきになってしまい、ライブ型授業の活性化ができない場合がございます。そのため、録画を見ることができる学生をある程度限定することが効果的かと思っています。ライブ型授業でも、ある程度、質問時間を取るといったコミュニケーション方法を確保していただければと思います。

5. 春学期の事例紹介

事例紹介1

情報教育センター 田中 真 准教授

1. 春学期の授業を通じて得られた3つの知見

情報教育センターの田中から、どのように春学期の授業を展開したのか、お話をさせていただきます。今回の内容は、学部学科依頼科目として、情報教育センターに依頼された情報リテラシーの基礎科目、そして私が担当している大学院の科目で実践した内容をお話します。まずはじめに、結論を述べさせていただきます。

- ・ 学生の気持ちを想像しながら授業を進めることが Key (鍵) であり、スタートであった
- ・ 遠隔授業の正解の形は無く、科目の内容や使うツールによって変化し、遠隔授業の理想の形の模索はこれからも続く
- ・ 小さなバントの積み重ねのように、授業を様々な切り口で工夫して進めるしか無く、良い授業にするための特効薬は無い

春学期の授業を行った中で得られた知見というのはこの3つです。このあと5つの項目に分けて説明させていただきます。

2. 授業の進行ルール (シナリオ) の決定

まず遠隔授業という方針が決まり、どのように実施しようかととても悩みました。大学の教職員が利用するシステム、あるいは新1年生を含めて学生さんが利用するシステムが、それぞれ時と場面に合わせて異なります。図18のような関係性を表す図を4月30日に描き、選択肢が多過ぎることに気づき、危機感を持ちました。選択肢が多いということは、学生も迷いが多く

生ずるであろうと想像し、赤線で囲んである Teams を中心にライブ配信型の授業を学生に展開していこうと、ツールの絞り込みを行いました。

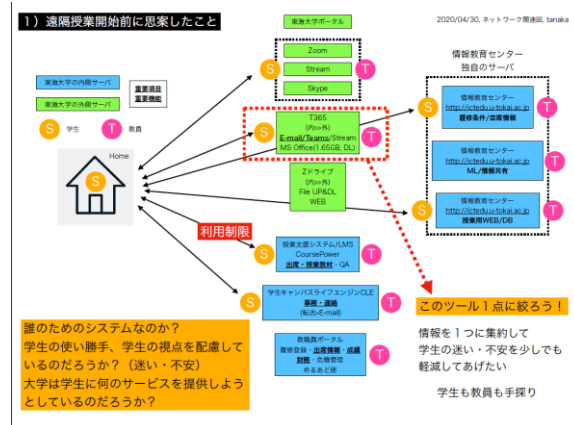


図 18 遠隔授業開始前にツールの関連性をイメージ化

まず、最初に授業の進め方のルール (シナリオ) を決めました。私にとって遠隔授業は初めての試みですし、教員も試行錯誤、それから学生さんも試行錯誤になると想像しました。学生に迷いを生じさせないように、授業前には独自のポータルサイトに来て欲しい、と明確な指示を出しました。その次に、情報の交通整理をしました。私はライブ配信をメインにすると選択しましたが、学生から私への質問やリアルな反応はチャットの文字で受け取り、それに対して私はリアルタイムで言葉の音声で返事する、というルールにしました。出来る限り、リアルタイムで即フィードバックを心がけたのは、土屋先生のお話と私の得られた知見と大きく合致する部分であります。私が主に担当したのは1年生でしたので、1年生は入学式も終わっていない、同級生のお互いの顔も知らない、大学のどこに重要な情報があるのかもわからないような状況でした。大学や教員から山のように情報が送られてきても、それを選別したり見分ける力がまだ備わっていないので、その基礎能力も基礎情報処理という授業だからこそ、私の方で一手間かけ、学生さんに対して情報の取り扱い

方について、対処の仕方について説明を加えることを続けました。

3. 授業のルーティン、その四部構成

次に、授業の毎回のルーティンを四部構成で説明したいと思います。

■前振り(第一部)

学生さんとの距離感を縮めたいと考えましたので、私の顔写真あるいはリアルタイムで初回だけ顔を見せて、学生との距離感を縮めるための工夫をしました。その後は、授業前にネットワーク環境に上手く接続できない学生に配慮して最初の5分～10分ぐらいは待ち状態を作りました。全員が合流しないと情報の一斉伝達ができないので、そこはクッション時間を設け、出遅れを少なくする工夫をしました。また、酷暑になってきた時期には、学生がライブ配信を視聴している環境(下宿や自宅等)全てが快適な環境ではないと想像しましたので、高めの外気温とコンピュータの発熱で部屋の中に熱がこもり、脱水症状を起こしそうな学生がいることにも気づきました。そのため、時々授業中に「水分補給をこまめにしてください」「カメラ・マイクをオフにしているから、健康第一なので熱中症にならないように水分補給しながら授業を受けて下さい」という教員から学生への声かけを数多く実施しました。

■序盤(第二部)

大量に流れてくる大学の情報を私が選別して、特に優先順位が高いものを学生に紹介しました。「2日前に山田学長から最新の情報出ましたので、みなさん確認しましょう」「教学や学部学科から、キャンパスライフエンジンに連絡が来ているはずだから、チェックしましょう」と、これもまたバントを積み重ねるよう

に声かけを繰り返しました。ある時には、学生から「宿題多いんですよ先生」「いろいろな科目から課題が出ていて、なかなか追いつきません」という疲弊した言葉を聞いた時は、私の方で若干の課題の分量や難易度を調整しました。学生さんの置かれている状況、主専攻の授業の負荷の具合を聞きながら、授業を進めて行きました。

■中盤(第三部)

様々な環境や事情を抱えた学生さんがいますので、100分の授業への集中力は簡単には持続しません。そのため、私自身が東海大学の学生だった過去の経験や、単位を取ることがどれだけ大変なことかという昔話を、学生さんと同じ目線だった時の話を、できるだけモチベーションを維持するために、様々な話を授業の中に織り込みました。ご存じない教職員の方もおられるかと思いますが、旺文社の蛍雪(けいせつ)時代と大学受験ラジオ講座、この教育スタイルを少し真似て、イメージして授業を展開しました。あるいは深夜ラジオを聞いた時のように、耳(聴力)に重きをおいて集中力をアップしてもらおうと考えました。視覚(ビジュアル)も同時に情報として入ると、学生は徐々に疲弊して、授業への集中力が最後まで持たないと気づいたので、できるだけ言葉(音声)で話し、想像力、あるいは頭の中でイメージーションしてもらうよう工夫をしました。また、教科書を購入できた学生さんであれば、留学生で韓国や中東などから日本に戻れず、「教科書を買えなかったです」という学生さんもかなりの数いました。教科書を入手した学生さんにも、入手できなかった学生さんにも可能な限り、不公平感がないように配慮したいということで、事情を説明して「教科書を買えなかった学生さんはこちらの教材を見て下さい」「教科書を持っている学生さんは教科書

をしっかりと見ましよう」というコミュニケーションや事情説明をしっかりとるようにしました。この小さなバントと言える作業（言葉で丁寧に説明をする作業）も、今回の遠隔授業で工夫したポイントでした。

■終盤(第四部)

春学期は初めての遠隔授業であり、とにかく各科目で100分間の授業を繰り返すことだけに集中し、気持ちの余裕が無く、がむしゃらに授業を展開するような感じでありました。各回の授業で自分のライブ配信授業を録画してありましたので、それを自分で見直して、一人FD研究会みたいなものを実践してみました。録画の振り返りで気付いた点は、私は必ず授業の最後まで残り、学生の皆さんがTeamsの会議室から全員抜けて切断するまで見届けていました。最後まで会議室に残っていると、質問したい学生さんが最後まで一緒に残ってくれています。この場面ではリアルタイムの音声で交互に質問と回答を実施し、効果的に学生さんの質問に答えたり、授業への不安を取り除く説明をその場で実施することを心がけました。

4. 秋学期への取り組み、その授業計画

秋学期では新しい授業支援システム Open LMS (以下 Moodle と表記) になりますので、どのように活用していく予定なのか、私自身の授業計画のビジョンについてお話させていただきます。

図19のとおり、MoodleとTeamsをミックスしようと思っております。Teams80%、Moodle20%と書いてありますが、徐々にパーセンテージを変えていきたいと思っています。どういうことかと言いますと、オンデマンドも大切、ライブ配信も大切、と思っております。そのミックス、またはブレンドが各先生の個性や授業の科目の個性によって変わってくると思われるので、

この辺りが難しいのですが、ただ色々なツールを使うのではなく、学生の迷いがないように2つのツールをブレンドして絞って活用しようと思っています。

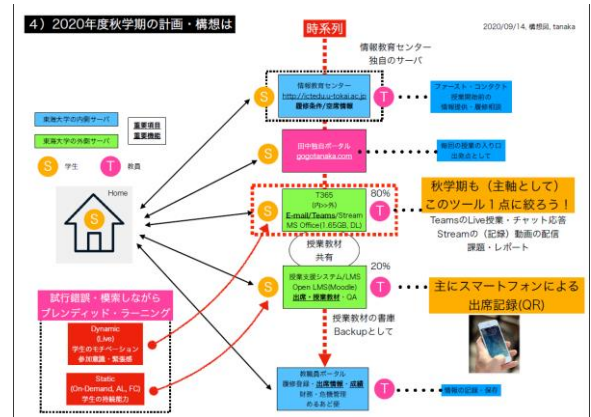


図19 2020年度秋学期の授業計画と構想

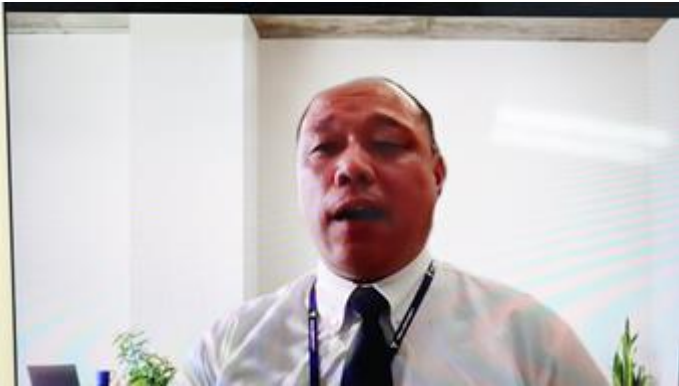
5. まとめ

冒頭でもお話ししましたが、結論は3つです。春学期に遠隔授業で実践した内容は、今までのFD研究会等を通して色々な先生方から教えていただいたテクニックやノウハウ、心遣い等のブレンドであります。春学期は、特にオンラインのライブ授業を展開しましたが、とにかく学生さんは多様性があり、教授陣の先生方も多様性があると感じました。遠隔授業のスタイルの答えはひとつではないと考えています。ライブ型授業も大切、オンデマンド型授業も大切であります。特にライブ型授業に出席できない学生さんを配慮するとなれば、オンデマンド型授業が効果的だと思います。その塩梅が、おそらく私たち教授陣や教職員の腕の見せ所だと考えています。多様性ある学生さんの満足度を上げるためには、遠隔授業という特殊な学習環境ですから、普段以上に細かな気遣いや心配りも必要かと私自身は感じました。そして、学生の皆さんに学力の向上を目指してもらいたいのので「勉強って面白いな」「研究って面白いな」と思ってもらえる授業を進めました。今回の春学期のアンケート結果の知見もそうで

すし、各先生が実施した工夫や知恵を教職員全体で情報共有すれば、さらに秋学期は良い授業展開ができるのではないかと思います。

事例紹介 2

現代教養センター 日比 慶久 講師



※質問形式にて事例紹介を行っていただきました。

Q. (土屋所長) 日比先生はE-mailを利用して、講義をされたとお聞きしておりますが、学生へのE-mailでの講義の発信におきましては、どのような点に気を遣われましたでしょうか。注意された点等についてお聞かせください。

A. (日比先生) 私は基本的にオンデマンド形式で授業を行い、資料は自分で作成しました。その授業資料をE-mailで全員に配信したのですが、今回気を付けたポイントは4つあります。

1つ目は、学生から「課題だけ出されて何も教員から返信がないじゃないか」と思われるのは非常に問題であると感じていましたので、こちらから課した課題については同等の労力をこちらもかけているというイメージを持ってもらえるよう、多くのコメントを付けて返信を毎回行いました。

2つ目は、疑問に感じている点や興味を感じている点が、学生から返却された文面からいくつか読み取れる事があります。それらを読み取った結果から、授業の課題の返信だけではなく、疑問や興味関心を持っている点についてもプラスα返信を行うということに気を配りました。

3つ目は、学生に対して厳しい言葉は一切投げかけないことを心がけました。逆に厳しい言葉ではなく、必ず褒めることにしました。学生から提出される課題に対して、良かった点を見つけ必ず褒めるように返信をしました。

4つ目は、学生が授業の内容に関して長文のコメントを返してくれるのですが、その中に普段の生活についても書き込みがなされており、こちらも学生の置かれた状況が部分的ながらもわかり、疲れてきている実情が見えてきました。コロナ禍の中で、遠隔授業を受けているということに対して、授業内容とは別に個別に体調への気遣いと、今頑張っている状況に対して「よく頑張っていて取り組んでいますね」といった言葉に表し、一文を必ず添えていました。これらの4つを柱として、授業を展開させていただきました。

Q. (土屋所長) 学生の反応はいかがでしたでしょうか。

A. (日比先生) 担当している科目が、基礎教養科目(自然科学)なものですから、学部学科問わずの授業になります。基本的に文系の学生からすると、自然科学、特に生物や化学というのは、もともと苦手意識が非常に強く、興味関心がないといった学生が多いということが、最初のアンケートを取ったときにわかっていたのですが、最後履修が終わった時点で「興味関心がわきました。授業が終わっても自分で調べようと思いました」というコメントを多数いただきました。特に観光学科の学生では、生物と化学はこれから全然関係ないと思っていたけれども、卒業後就職した旅行業において、生物学はエコツーリズムに関連があるので、個人でもっと生態系について調べますというような感想が寄せられ、興味関心がなかった中から、自分自身

への関連付け、紐づけがされたという実感を彼らが持っていた点良かったと思います。

実際に終わってみて、課題が重たいというコメントもあったのですが、達成感を得られましたというコメントも多く得られました。また定型文でなく個別に返信コメントを行った結果から、一人だけで授業を行っているのではなく大学とつながっている認識が持てたという意見がたくさん頂けました。秋学期も同じような形になると思いますが、学生の不安等に対して取り除き、寄り添うような形で返信をしてあげれば、このような授業形態であったとしても、一人ではなく大学とつながっているという実感を持たせられるのではないかと感じました。

(土屋所長) 日比先生ありがとうございました。E-mail をこれから使って、私たちは学生といろいろなコンタクトを取るようになると思いますが、そのときにどう構築したらいいのかということが非常によくわかりました。

事例紹介 3

教育支援センター次長・体育学部体育学科
内田 匡輔 教授



この春学期、東海大学の中でも聴覚障がいのある学生が先生方の授業を画面の向こう側で受けていたと思います。東海大学は現在「伊勢原要約筆記サークル『やまびこ』」さんの力を借りまして、聴覚障がいのある学生の支援に取り組んでいます。そういった体制や取り組みについて、資料を抜粋しながら先生方と障がいのある学生の支援をどのようにしていくのか情報共有ができればと思います、事例紹介をさせていただきます。

2. 聴覚障がいのある学生への支援

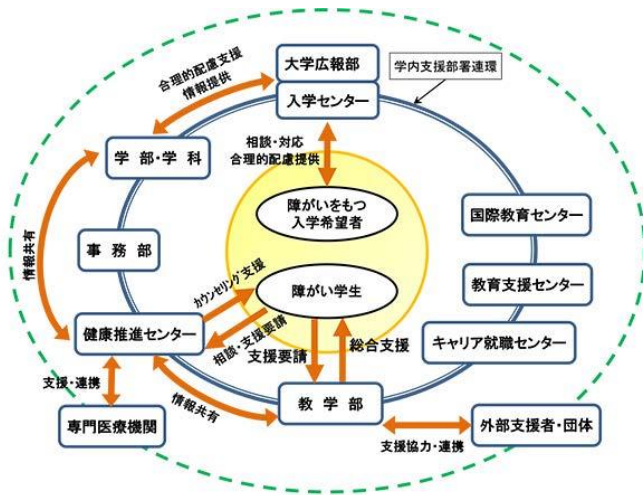
まず最初に、聴覚障がいのある学生への支援についてです。「視覚資料に掲載されていない音声情報を取得することが難しくなる」というのが、聴覚障がいの方々の特徴だと思います。そこで、オンデマンド型とライブ型で違いがございますが、例えばオンデマンド型では、文字情報を多めにさせていただくことが重要になります。また、ライブ型ではUDトークというアプリケーションを使って文字起こしを自動的にしていく事ができます。また、聴覚障がいのある学生は、先生方の口元を見て何を喋っているかということを考える場合がございますので、是非このライブ型、またはオンデマンド型の収録の際には、マスクを付けずに授業を行っていただく等の配慮をしていただければと思います。

3. 視覚障がいのある学生への支援

視覚障がいの学生の支援の例があまり聞こえてこないですが、実際には視覚障がいの学生、または「見る」ということに困難がある学生がいることも当然考えられます。そういった学生につきましては、学習の効率が悪いという点や、体育の授業などでよくやりがちですが、「この」、「その」、「ここから」といっ

1. 障がいのある学生への支援

私からは、障がいのある学生への支援ということで、図 20 のような形で東海大学に支援の取り組みがあるという事をお話したいと思っております。



障がい学生に対する支援体制図
※学内外のさまざまな資源と連携して支援をします。

図 20 障がい学生に対する支援体制図

た指示語の使用は極力避けていただきたいというところが配慮事項に入ってきます。

また、様々な資料があった際に、先ほどの田中先生のお話にもありましたけれども、ツールが複数ありますと困難さが倍増されていきますので、極力何らかの主たる情報源に集約していくということが、視覚または情報を取ることに難しさのある学生にとって重要な点にあります。

4. 運動障がい、発達障がいのある学生への支援

運動障がい、発達障がいのある学生はスムーズにノートをとることや、何かを準備して授業を受けるということに時間を要します。例えば、発言するという際にも時間がかかることがありますので、先生方に申し伝えただいたうえて、授業に臨むことになると思います。

また、授業中に課題を提出しなさいといった部分でも時間帯についての配慮等が必要だと思います。土屋所長からも話がありましたとおり、余裕を持った課題の設定というのはこういった学生にとってもやさしい授業になると思っています。

5. UD トークについて

さて、ここまでは困難な状況と対応について話をしましたが、本学の状況についての話をしたいと思います。本学においては、先ほど話をしました、委託契約をしている「伊勢原要約筆記サークル『やまびこ』」さんに、今セメスターは、10名の聴覚障がいの学生のサポートを依頼しました。この10名の中で7名がUDトークを使用して支援を受けました。このUDトークは、私がこうして話をしている言葉をそのままリアルタイムで文字起こしをしてくれる優れたアプリケー

ションだと思っています。是非先生方にもご利用いただければと思います。

また、聴覚障がいのある学生から「雑音も少なく聞き取りやすかった」という声が挙がっており、これは今回の遠隔授業をライブ型でもオンデマンド型どちらで実施するにしても非常に良かった部分であったということがある程度わかりました。しかし、グループワーク等で、コミュニケーションを取ろうというところでは難しさがあるようです。例えば、先生方が「手を挙げて発言してもらっていいですか」ということや「AさんからBさんに」といった、先生が案内をするような配慮がある授業は非常に学生にとっても受けやすいということがございました。学生が授業で発言をするといった参加場面では音声が多岐したためにUDトークではなかなか文字が起こせないという場面もあったようです。ただ他大学の資料にしても、本学学生の声全てに共通するものとして、土屋所長のお話にもありました、コミュニケーションの大切さというのを改めて感じます。是非こういった学生がいた場合には、対象学生とともにコミュニケーションを取っていただいて、理解を確認していただくことが大事だと思っています。

UDトークはいろいろなコミュニケーションを実現させるアプリケーションです。このUDトークに関しては、先述しております『やまびこ』さんが法人契約をしておりますので、こちらでIDを取りますと先生方も使用することが可能でございます。こういったものを使用する場合には、教務課もしくは『やまびこ』さんまでご連絡いただければと思います。

6. 遠隔授業におけるマナー、著作権について

最後に遠隔授業のマナーということで、図 21 のとおりまとめておりますので、ご確認いただければと思います。

TOKAI UNIVERSITY

VII. 遠隔授業におけるマナー

LMS、Teams、Zoom等の利用に関する注意点をまとめてみました。

1. 学生からの質問等には、なるべく早く返信をおくる
2. 大きなファイルを利用しない（1ファイル100MB程度までを考える）
3. ファイルの提出期限の時間を、システム初期値の時間からずらす
4. 講義資料の掲示は、順次毎週の授業日前日の17:00くらいまでに公開する
5. 公開した講義資料は、少し長い期間公開する
6. 動画は、一つの授業に対して、10～20分程度の短いもの複数本
7. Teams、Zoom等では、顔出しの強制はなるべく避ける
8. 学生の印刷環境への配慮
9. 授業に関係ないスマホ利用はしないように伝える

図 21 遠隔授業におけるマナー

先生方が非常に気になさる点として、著作権があります。著作権に関する情報について心配される方が多いですが、著作権に関しましては、既に春学期の初めに「大学のオンライン遠隔授業における著作権ガイドライン」という資料が、「SharePoint」-「大学サイト」-「[遠隔授業サポート](#)」内に掲載されていますので、こちらを見ていただければと思います。

また、学生に関しましては、2020年5月22日に教育学部長名にて「情報倫理の遵守について」ということでお知らせを出しております。このような点にご配慮いただきながら、秋学期に向けての準備を進めていただければと思います。

7. まとめの言葉

大学運営本部の内田です。本日の講演を行っていた先生方の話をまとめますと、やはり最も大事だったのは学生とのコミュニケーションをしっかりとっておくということでした。これによって学生の満足度、学習の程度が大きく変わってくる感じがいたしました。秋学期の授業が2020年9月26日からスタートしますが、その前の23日・24日がガイダンスということで、例えば遠隔授業においてはOpen LMSあるいはTeams等のシステムがありますが、それとは別にメールシステムや、場合によってはLINEなど、必ず複数のコミュニケーションツールを用意しておくことも大事なことと感じました。

また、履修登録者がある程度わかってくる段階では、逐次メール等で履修者に対して呼びかけを行い、コミュニケーションを取り、教員との結びつきを確立していくことから始めていくことが大事とも思いました。

2020年が始まった頃は、まさかこんな年になるとは誰も思っていなかったと思いますが、5月17日から春学期が始まった中で、本当に先生方におかれましては、大変な思いをされて授業を実施していただいたことと思います。秋学期がスタートするにあたりましては、現在教育学部の方では授業の科目等いろいろ調査をしている中で、対面授業でキャンパスに入構する学生が1日に最大で2,600人ぐらいになると聞いております。この学生がその日ごとに、対面授業と遠隔授業を混在しながらキャンパスで過ごすということも有り得るということで、キャンパス内のWi-Fi接続環境も急ピッチで充実させているところであります。

また、対面授業と遠隔授業だけでなく、先ほども少し話題に出しましたが、対面授業であっても、学生によっては千葉・埼玉・東京等から来る学生においては電

車に乗りたくないとか、家で講義等を受講したいといった、いろいろな学生がいると思います。非常に複雑な授業実施体制になるだろうと思っているところですが、随時臨機応変に対応できるように、大学としても心がけていきたいと思っております。今日は本当にお忙しい中、このFD研修会にご参加いただきましてありがとうございました。

8. 参加者アンケートより

- ・学生、教職員アンケートの要点を的確に説明していただき、とてもわかりやすかったです。また、3人の先生の授業事例の取り組みも、今後の授業運営において、すごくヒントをいただきました。
- ・学生に対するきめ細かなコミュニケーションが大切だと認識しました。
- ・学生の不満や不安について、感覚的には理解していましたが、データで理解できてよかったです。
- ・学生からの評価は概ね世論と同様であると感じたが、本学としての改善点が明瞭に示されたのは参考となり良かった。どのような方法で授業を展開したかといった具体例もあり、秋学期に活かすことができると思う。
- ・私も厳密な試験が実施できないため、受講生には多くの課題を課しました。本研修会より、受講生に対するフィードバックの大事さを実感致しました。
- ・遠隔授業に対するアンケートから、自分の印象と学生の印象との違いを認識することができ、あらためて遠隔授業の実施に際して留意すべき点を確認することができた。
- ・学習意欲がない学生に対する対処法について、全く言及がなかったのが残念です。「私は部活をやるために大学に来ているのであって、勉強するために来ているわけではない」とか「楽しんで単位を取りたい」と公言する学生を相手にしているので、その点の配慮があればより良い内容になったはずです。その一方で障がいを持つ学生への対応について時間を取っていたのは素晴らしいと思いました。

9. 教育支援センターお知らせ

1) 「遠隔授業の推奨ガイドライン（2020年度秋学期版）」について

2020年度第1回教育支援センター「FD研修会」及び「遠隔授業についてのアンケート」結果等を基に作成しました。秋学期以降の遠隔授業運営の参考資料としてご活用ください。資料は以下のページよりダウンロードができます。

T365-[SharePoint]-[大学サイト]-[ライブラリ（全舎）]-[\[290.教育支援課\]](#)

2) 学部「授業についてのアンケート」

2020年度春学期学部「授業についてのアンケート」集計結果の公開を2020年11月下旬に予定しています。以下のページをご確認ください。

教職員ポータル- [Web オフィス] - [授業についてのアンケート] - [\[検索する\]](#) を選択後、授業名等を検索することで閲覧可能です。

3) 2019年度「卒業にあたってのアンケート」の実施結果について（最終）報告

最終の実施結果概要ならびに、学生からの自由記述に対する各学部・関係部署からの回答を以下のページからご確認いただけます。更なる学部運営や教育環境改善等にご活用ください。

T365-[SharePoint]-[大学サイト]-[ライブラリ（全舎）]-[290.教育支援課]- [05.各種アンケート] - [卒業にあたってのアンケート] - [\[2019年度\]](#)

4) 過去の広報誌・動画について

下記 QR コードより、これまでの「[広報誌 COMMUNICATION NEWS UP](#)」のバックナンバーをご覧になることが可能です。他大学の事例を用いた教育手法や東海大学の取り組みなどが掲載されています。また、教育支援センター主催 FD・SD 研修会を収録した動画を T365 経由で視聴が可能です。希望する方は教育支援課までご連絡ください（本学教職員のみ）。



お問い合わせ先

内線番号：720-2086

Mail：fd-seminar@tsc.u-tokai.ac.jp